

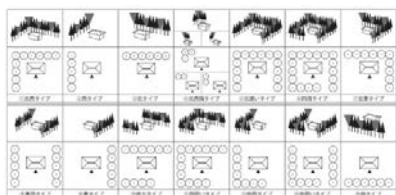
令和2年度の研究(または活動)内容

<調査・研究活動>

2020年度は、主に3つの調査・研究活動を行なった。

1. 農村景観調査

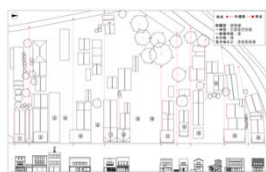
世界農業遺産に認定された「大崎耕土」の農村景観を調査している。本年度は、屋敷林のマクロ分析に焦点を当て、集中的に分析を行なった。



(屋敷林調査の例:建築学会大会原稿に掲載予定)

2. 町並み景観調査

白石市の歴史的市街地を対象として、町並み景観を記録した小冊子の制作に取り組んだ。



(町並み調査の例:建築学会大会原稿に掲載)

3. 農村景観の保全WS

農村部に現存する民家・古屋の保全活動を継続的に行なっている。

これらを活用することで、地域の皆さんに当該地域における景観要素としての魅力を発信する機会になると考えている。



(仙台最古の民家の畳張り替えと掃除WS)

<研究会>

2020年度まとめ、及び、次年度活動方針の確認のため、研究会を開催した。

開催日時:2月17日10時~12時30分

参加者:

研究所研究者3名(渡邊浩文先生・大石洋之先生・不破正仁)

所属研究室学生:9名(内オンライン参加1名)

オブザーバー参加:(泊尚志先生[都市マネジメント学科]・泊研究室学生1名)

議題:

- ・参加者の研究紹介

内容:

渡邊 浩文「東北景観研究所への期待」

大石 洋之「地域景観を対象とした心理的評価に関する研究事例の紹介」

泊 尚志「地域アイデンティティ研究の展望」

不破 正仁「大崎耕土の屋敷林調査の進捗」

- ・学生らによる研究成果報告

内容:

荻原 拓真 「都市環境における視覚的な賑わいの印象形成に関する研究 東北地方における駅前空間を対象として」(大石研究室)

近石さゆり 「景観の意味理解への態度が地域アイデンティティへの指向性に与える影響」
(泊 研究室)

轟木 ひな「農村地区の交流拠点と周辺環境に関する研究～農村部に立地する喫茶店・カフェの特性に着目して～」(不破研究室)

- ・次年度の方針についての検討

研究会の成果:

本研究会では、4名の教員から話題提供があり、それぞれに対し、活発で建設的な議論が行われた。また、それぞれの研究室に所属する学生からの卒論成果の発表も行われ、既存の研究グループによる卒論発表とは異なり、系・学科を超えた有意義で多角的な議論に発展した。

なお、盛り上がる議論の中で、本研究会にオブザーバーとして参加して下さった都市マネジメント学科の泊先生及び研究室の所属学生さんについては、これ以降、メンバーとして加わっていただくとの発展的展開となった。

また、本年度はコロナ禍の影響で、フィールドワークの機会が限定されてきたが、次年度は、感染拡大に最大限配慮しながらフィールドワークを開催する方針となった。

次年度に向けた打ち合わせを行うため、次回の研究会は、3月22日に設定された。なお、次年度初回のフィールドワークは5月開催を目指している。

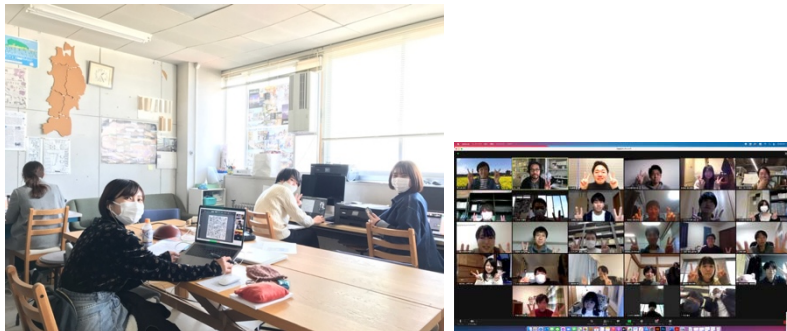


(研究会の様子:5号館大学院講義室)

<学外WS>

景観研究に関するテーマで、他大学との共同WSを開催した。

当初は、各地域に出かけWSを開催する予定であったが、コロナ禍の影響でオンライン開催を余儀なくされた。一方で、オンライン開催としたことで、WSの開催回数を増やすことができ、有意義な議論の場となった。



(他大学との共同WSの様子[zoomでのオンラインWSの様子:鹿児島県・茨城県・宮城県が繋がっています])